初の中央地域、主婦合同会議

家族會議は是非開け

本腰入れて生活革命運動に取組む

いよいよお盆だ。盆休みも十五日から三日間がきまつた。組合でも例年のようにお盆前後のムダ排除のため生活革命運動をおし進めることになつたが、よくに今回はいままでのこの運動に一段とテコ入れして、徹底した運動に引もどそうと三鉱労組はじめての中央地域分会長、主婦会長を去る七日、本社体育館に集めて合同会議を行つた。ここで徹底した論議を行い、本格的な生活革命運動に取組むことになつた。

この初の合同会議に地域分会、主婦会合計約　名が出席して午前十時から開催した。

宮川組合長より「地域分会と主婦会の分会は組合運動の最前線での行動の基地です。これが一堂に集つて組合の統一した行動を推めるということは大きな意義があります。皆様方の十分なご意見を伺つて執行部の今後の指針としたい」と挨拶があり、議事に入つた。垂尾厚生部長より、本年度生活革命運動の推進について説明があり、各項目に分けて論議されたが、この日述べられた意見大要を拾つてみると。

一斉大掃除は無理

四山＝盆行事は自主的にといわれたが、市では舞踊の先生を入れてやつている。市との関係はどうか。

三川＝盆行事は統制にやるべきではない。一番よいのは映写会ぐらいではないかと思つたが、費用の点で困つている。また盆提灯行列、子供の花火大会の斡旋をお願いしたい。

四山＝運動の時期が遅かつた。正月はもつと早くしてもらいたい

三川＝みんながすぐ地域で即実行できるものでなければならないこんご提案は簡潔に流してもらいたい。

主婦＝お父さんがキャンプや映画など他所へ行くとき、女性は着物に苦情いうので困難です。また男性は社会問題を論じる機会が多いが女性はその機会が少い家のため主婦が婦性になつては家庭の真の幸福はないと思う。

外来の消毒も考えよ

三作＝集団社宅の消毒はよく取上げられているが、組合として外来の消毒はいかに考えているか

四山＝一斉大掃除は勤務の関係からなかなか難しく、できないと思う。それに噴霧器が不足するのではないか。

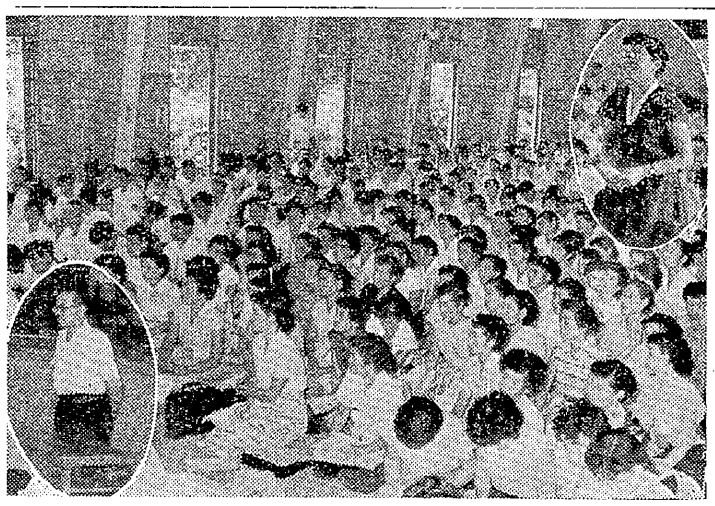
駿島分会ではラジオ体操のときウガイの励行を行つている。各分会に大いに参考になると思う

三川＝蚊とハエのいない環境は誰でも望んでいる。だが下水の不備でこれが最も悪い発生源になつている。当縣予算を組むとき根本的な解決を求む。

四山＝四山社宅は汚物が海岸で処理されている。このため社宅にハエが多く、北地区では被害が大きい。汚物処理についての検討をお願いしたい。

四山＝一日寝かせ運動はよいが、家族会議の中で買物をするにのであるので、まず会議をやらせることが初歩の道である。

等々この他いろいろと貴重な意見が述べられ、とくにこの種の会議は有益であり、もつと早く開くべきだつたとの声が強かつた。この後、知事リコール問題、水害カンパなどが論議されたが、生活革命運動に取組む初の合同会議だけにこんごの運動の成果がどのように挙るか大いに期待がもたれている



みんなの眼は真剣だ（左組合長、右発言する主婦）

演劇で労農提携

"仲間"農村へ進出

三川支部楓分会でつくつている劇団〝仲間〟はさる七月二十七日、農村地区へ進出、日頃練習した自分たちの演劇を農民へ披露して労農提携の新しい分野を開拓していつた。

〝仲間〟では劇団結成いらい自分たちの手で脚本もつくり、舞台けい古なども行うという、全くの自主劇団として、仕事の暇を見出しては熱心に練習を励んでいたものであるが、結成当時からの念願であつた、農村地帯へ進出していつて、労農提携をはかりたいというお願いがついに完成した。

この日午後六時半から荒尾市盛公民館上演。演しものは「愛の談飯節」「兄弟」「留守家族」「原爆許すまじ」など。娯楽に乏しい農村のこととて、上演まえから公民館は大入満員、収容人員二百名がギツシリすしずめに詰まつた。劇団員は総勢四十名の豪華キャストで、流れる汗もかまわずに熱の入つた舞台をみせた。

年寄りも子供も多かつたが、年寄りなどは、舞台にみいつて涙を流して観劇するというシーンもあり農民たちの大歓迎を浴びて、初回はやくも成功裡に終つた。

子供会を結成

＝四山福一分会＝

四山支部福一分会では中学校、小学校の児童対策部諸氏の骨折りで子供会をつくり、こんご子供たちの自主性をのばし、社会生活の自覚をもたせる意味で夏休諸行事を一致協力して運営をはかるよう、去る七月二十八日クラブで分会長を招き総会を開催した。推薦投票の結果左の役員を決定し本格的運動にのり出した。

会　長　和田　直記（中三）
副会長　相原　俊幸（〃）
〃　広田　聡子（〃）
〃　土屋美恵子（〃）
第一部長　新村　純作（中二）
第二部長　矢羽田功亮（〃）
第三部長　田中　乾（中三）
第四部長　若松　弘子（中二）

ラジオ体操時にウガイ励行

成果挙る牧島分会

四山支部牧島地域分会では朝のラジオ体操に全学童がウガイ瓶をもつて参加、このため児童たちのウガイ励行が大いに効果を挙げている。

同地域では第三回地域、主婦会の合同役員会を七月に開いたが、ここで分会長の要望で児童部は八月より朝のラジオ体操どきに一年生から全学童が、必ず食塩水を入れたビール瓶やサイダ瓶かコツプをもつてウガイの指導を行うこととなつた。

やり始めたところ結果はすこぶるよく、なかなか家庭内では励行がむつかしいので、この期間にしつかりとウガイのくせをつけて、夏休み後も冬の間もこれを行うように当慣づけようといま父兄にも協力が求められている。

サァ今日も練習だ

地域に育つ音楽の愛情

小岱山も麓に近いここ緑が丘の最東端四山支部鴨町では、さいきん木琴、笛、ハーモニカなど、太陽が前方の窪仙ダケに沈むころになると学童たちの音楽の調べが奏でられる。

この音楽はラジオのこどもへのお休みの時間を告げるころまで続けられている。

この学童たちを指導しているのは永江藤登さん（四山・坑内）である。永江さんの音楽好きは有名だ小さいときから音楽に興味を持ち血の出るような努力を続けてきた精進家でもある。

この永江さんがいま地域の学童たちのため夏休みを利用し音楽の指導にいそしんでいる。

坑内作業の激しいつとめの後の指導だけに、いまでは地域の人たちの注視の的となつている。

木琴を叩く。すわつては駄目だ。起つて叩くのが正しい姿勢であるこのため架台も数台つくつた。また指導に必要な黒板もつくつたなかなか費用も簡単で済むことではないのである。

永江さんは

音楽は児童にとつて心を落つける親となるのです。遊び盛りの子供は一曲でも自分のものにすると、つぎの曲への意欲も旺盛です。だから進歩するのも大人より早い。

と愛れた様子もみせずに語つている。

この夏の盆踊りには地域の人たちがいまから大きな期待をかけて待ちわびている。それは、自分たちの手でつくり上げたグラウンドではじめて盆踊りがされることと、この踊りに学童たちが音楽を奏でてくれるということだ。

いま。永江さんは盆踊りに学童たちを出演させようと張り切つている。

よき指導者を得た鴨町のよい子たちは、こんごさらに音楽に対する理解とともに教養のカラを身につけていくことだろう。

つづり方教室

雨の音に

本所　中村洋子

よく降る雨だ。家を流され、肉親を失つた災害地の人々は、どんなを想いであろう。何時だろうか、下屋を出したトタンを打つ、はげしい雨音にふと目を覚ます。あーあまだ降つている。となりの長男は、腹巻き一つでかけていた物は全部はねのけ、半分は蚊張を着たようなかつこうで、畳の上に大の字だ。ふとんの上にかかえやりながら、親子三人無事な幸に、ふつと目頭が熱くなる。

明日も雨だろうに、夕方お風呂でとられた雨靴とても出ちやこないだろう。でももういらない。ずい分シヤクだつた。すり変えられたらしい汚い靴を、雨の中にほおり投げてやりたい様な。私だつて貧しいのに。爪先が破れて、水の入るようになつた靴に、もう四年もはいたんだから、とずい分考えようやく買つた五百十円の雨靴だつた。まだ三カ月もはいちやいない。同じ文数の同じ型の靴があつた、誰れかこれと間違えたかな？きつと曇かな暮しではないに違いない。しめしめ新品をはいてくるぞ馬鹿がいるから、これで三、四年は大丈夫と舌を出しているぞろうか？家の中をきちんと整理し、きれいなカーテンをかざり、センプー機を廻している人がまさか人の雨靴をはいて帰つたりはしないだろう。

社宅の生活も様々だ。石油コンロ、電気釜、センプーキ、オートバイ、と数限りなく文明の利器はふえるばかり。やがて洗濯機、冷蔵庫、テレビとすえつけられる家も出てくるのではなかろうか。勿論三万円とる人も、一万円の人もあろうけど、それぞれの収入に応じた生活、人の主給をうらやまずセンプーキが買えなくても家族そろつて健康に平和にさえ暮せたらそのささやかな幸を感謝しよう。私は自分のともすれば、かさかさにひからびそうになる心にいい聞かせる。

「この辺ではうちが一番片附いてない様ね」

ようやくおそい夕食の後仕末をすまし、やれやれとかつかりして座り込みながらいつてみる。「洗濯と掃除が仕事だもん、きれいなのが当り前さ」という返事。「ミシンの廻り位い少し片付けたらどうだ」と不気嫌な声を聞けば「一週間位い特休とつたら、金ピカピカにみがき上げて見せますよ」負けずに、とがつた声では返す私だが、そういわれれば少し後めたいであるのも事実だ。

「一つは性格よ、私は余りいい奥さんじやないらしい」と苦笑するでも、ひよつとすると散らかる物もない家があるかも知れない。その日の暮しも十分でないという話も聞いた。もう大低ろつたし、今度はミキサーを買おうか等、楽しく語つている人と、何という開きであろう。主人の働きのなさか主婦のくらしのまずさか、それは知らないが……。

二人合せて、よその一人分はないけれど、私達はがんばろう。首にならない職場をもつている。この子の、自分達の将来の為に、又明日からも忙がしい毎日を生きてゆこう。もう雨靴はあきらめようりやしない。一日に五百十円も取られるんだもん。諦め切れぬままも今は違つた気持だ。後で開けばあろうけど、それぞれの収入に応じた生活、人の主給をうらやまずセンプーキが買えなくても家族そろつて健康に平和にさえ暮せたらそのささやかな幸を感謝しよう。私は自分のともすれば、かさかさにひからびそうになる心にいい聞かせる。

「この辺ではうちが一番片附いてない様ね」

ようやくおそい夕食の後仕末をすまし、やれやれとかつかりして座り込みながらいつてみる。「洗濯と掃除が仕事だもん、きれいなのが当り前さ」という返事。「ミシンの廻り位い少し片付けたらどうだ」と不気嫌な声を聞けば「一週間位い特休とつたら、金ピカピカにみがき上げて見せますよ」負けずに、とがつた声では返す私だが、そういわれれば少し後めたいであるのも事実だ。

元気な若人の祭典

平和の友好キャンプ

今年の平和キャンプは八月四日博多湾の今津海浜で行われた。折悪くの繁雨に見舞われ、当夜は学校講堂で宿泊をよぎなくされたが、三鉱労組からは二一二名が参加、大牟田地区から総勢二八〇名が参加して、若人の楽しい集いを行つた。

× × ×

やつと雨が小降りになつた午後九時十五分ごろ、ニュースカー「はたかぜ」を先頭に四台に分乗した大牟田地区の参加者が到着した。先発隊によつて今津小学校の講堂を宿泊所に準備していたので、各支部ごと、単位ごとに分かれて落ついたのは午後十時。

「天候に対する不満はあろうが、せまい講堂で友情を深め、平和を誓い合おう」というわけで、各区割りごとに歌ごえ交流を始めた。

「わかものよ」「平和をまもれ」「東京―モスクワ」「炭ほる仲間」にまじつて浪曲独演、バナナボート独唱もとび出す。そのうち福岡市従組の若人十数名が交流に来て、拍手で歓迎。宮川組合長以下本部役員、書記労女性の炭鉱節を最後に交流の幕をとじる。その間地元青年団の好意によつて夜食の炊事も行われ、腹ごしらえも十分悪天候と岐の襲来をうらみながら横になつたのは一時近くになつていた。

愉快なアヒルとり

翌日はカラリとした上天気と思いの他、ドンヨリとした曇がたれている。「どうせここまで来たんだから雨が降つても行事をやろう」と実行委員会にカケ合い、十時より海岸で友好祭をはじめる。悪天候にもめげず参加者六百余人、裸で海にとびこんだ。

歌ごえの交流、アヒル取りの統一行事。十羽のアヒルを海にはなして各団体のカツパがそれを追いかける。宮浦、三川、本所、港務、三作のカツパがアヒルをつかまえた。統一行事が終つて昼まで各支部思い思いに海浜で遊ぶ。

ワアツ、ワアツという歓声の中で本所の水球、アベツク競走、港務と実行委員会の川中島合戦等、真心にかえつて潮水に足をとられながら楽しんだ。

午後二時、中食を終つて、講堂内外の清掃をすまし、三時キツカリ遊び疲れた若人をのせた五台のバスは大牟田に向かつた。

【写真】上から講堂で歌の交流　砂浜になびく組合旗、海辺の集い